



間伐木の選定実習



間伐後の解説

山の価値を高めよう

堀の越で間伐講習会開催

豊かな山づくりに、間伐はかせませせんー本町民有林の人工造林は、そのほとんどが三十年生以下の若齢の杉林で、良質材生産と山の価値を高めるために「保育・間伐作業」の推進が大きな課題となっています。

こうしたことから、町と森林組合は、九月七日黒淵字堀の越地内の町有林（黒淵と向田の中間）で、由利農林事務所林務課の阿部主任技術専門員を講師に迎え、本町では初めて間伐講習会を開きました。

この日会場には約九十人が集まり、午前中、阿部専門員の講話を聞き、午後には三班に分かれて間伐木の選定実習を行いました。

間伐は、年輪幅を均一にし、一本あたりの生産量を増やしてバラツキのない健全な林をつくるために重要な作業とあって、受講者は、阿部専門員の講話と間伐選定木一本一本に対する可否の解説に、真剣に耳を傾けメモを取っていました。

町の 生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康な暮らし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心

良一さんの
「もりひめ号」

全国共進会で優等賞

第四回全国和牛能力共進会が、九月十五日から六日間福島県・本宮町で開かれ、秋田県代表として出陳した本町山崎・小松良一さんの「もりひめ号」が、第六区(黒毛和種、二十九月齢)でみごと優等賞に輝きました。

全国共進会は、社団法人・全国和牛登録協会が昭和二十八年から大体五年に一回の周期で開催しているもので、共

【上】優等賞受賞直後の「もりひめ号」と良徳さん(良一さん長男)【左】受賞を祝い乾杯する良一さんら(本宮会場で)



進会の名に能力の文字を加え能力共進会と銘打って開くようになってからは四回を数えます。

またこの共進会は、単に体型、資質だけを主体に審査するのではなくて▽発育▽遺伝能力▽繁殖能力▽と肉性――など、各種の経済的な能力を含めて審査するもので、そ

県畜産共進会

克司さんの乳牛が優等賞

肉用牛は四頭が一等賞

「風土に根ざした畜産経営の確立」をテーマに、第七十



一回秋田県畜産共進会が九月四日から三日間、河辺町戸島の県中央家畜市場構内で開かれました。

出陳家畜は、県内各地区の共進会を勝ち抜いてきたものだけに、どれもが審査員泣かせのいずれ劣らぬものばかり。

本町からは、由利畜産共進会で上位入賞の肉用牛六頭、乳用牛一頭、計七頭を出陳。慎重かつ厳しい審査の結果、乳用牛・ジャージー種の部で畑山克司さん優等賞受賞のウイローロマンスマイルストーンハーモニーと克司さん

の期間は約十カ月にわたっています。

今回、本宮会場には、三十三道府県からの参加牛約五千九百頭のうち、各地の数次にわたる予選に合格した三百四十頭が出品され、最終比較審査が行われたものです。

本町の肉用牛飼養頭数は、今年二月一日現在で二千三百頭を超え、増頭率、飼養率ともに県内トップの産地となっています。そして、五十八年からは出羽丘陵開発事業に取り組み、良質粗飼料を確保して、規模拡大と経営の安定を

図り、豊かな肉牛の里づくりをいっそう進めることにしています。

こうしたなかで、「もりひめ号」が、いわば「日本一和牛祭り」ともいえる全国共進会で優等賞を受賞したことは、本町の飼養管理技術、和牛の改良方向が全国的に認められたものであり、飼養者の小松さんはもちろん、他の和牛飼養農家にも大きな自信と希望を与え、稲作に次ぐ本町農業の柱として、今後の町畜産の発展が大いに期待されるところです。

(島) 所有の「ウイローロマンスマイルストーンハーモニー」が優等賞・農水省畜産局長賞に輝いたのははじめ、肉用牛の部で一等賞が四頭、三等賞が二頭の好成績を収め、畜産東田利の真価を発揮しました。肉用牛部門の成績は次のとおりです。(所有者敬称略)

◎一等賞

〈成牛区(二十九月以上)〉

ゆりえ号 高橋喜久男(須郷)

〈高等登録群(十六九月以上)〉

・よしさかえ号、よしさかえ

一号、よしさかえ二号 畑山

藤作(土場沢)

◎三等賞

〈第一類・若牛区(十四九月以上十七九月未満)〉

ふくはる五号 小野祐喜(宿)

〈第二類・若牛区(十七九月以上二十九月未満)〉

まつこ一号 小野貞一(蔵新田)



山口工業短期大学学長、旭川大学教授、日本大学土浦高等学校長、同中学校長、日本大学講師、東洋大学講師などを歴任し、長年にわたってわが国教育界に多く

町功労者 佐藤政次氏（新勉）が急逝

新勉出身で町功労者の文学博士、佐藤政次氏（旧姓、遠藤、武蔵野市住）は、九月十七日急逝されました。明治三

十五年四月一日生。享年八十一歳。

佐藤氏は生前、日本大学で法律と史学を学ばれ、同大学院修士・同博士課程を修了。宣明暦の研究で文学博士号を取得。

の業績をあげられました。主な著書に「平田篤胤の科学精神」「曆学史大全」「日本曆学史」「精説日本史」「民謡の旅」——などがあります。

また同氏は、近年、東京東由利会会長の職にあつて、在京町出身者のまとめ役として、同会と郷土東由利の発展に尽力されました。

昭和四十八年十一月三日、勲四等に叙せられ瑞宝章受章。昭和三十七年十一月三日、東由利町功労者顕彰受章。心からご冥福をお祈り申し上げます。

青少年の健全育成を 「町民会議」が設立



青少年の健全育成と環境づくりの推進を誓い合った町民会議設立総会

広く町民の総意を結集し、青少年の健全育成を図ろう—

と青少年育成東由利町民会議が結成され、九月三日有鄰館

で学校、家庭、地域、職場などから約百二十人が出席して設立総会が開かれました。

総会では、設立までの経過報告のあと、「全町民の結束を計り、青少年健全育成の強力な実施体制をつくることを目的として『青少年育成町民会議』を設立する」という設立宣言を満場一致で採択しました。

と祝辞を述べ、町議会議長、由利福祉事務所長、秋田県民会議会長（代読）からお祝いのことが寄せられました。

この後、規約、事業計画、収支予算について審議。当面は、会議の中に四部会を設け、会報等を通じて会議への積極的参加を呼びかけるとともに▽地域、青少年の組織づくり▽子供会大会やリーダー研修会の開催▽声かけ運動、環境浄化——などを推進していくことにし、役員を選出して議事審議を終えました。

役員は次のとおりです。任期は、昭和五十八年三月三十一日まで。（敬称略）

【会長】進藤新（町教育長）
【副会長】・佐々木正輝（大琴）
・畠山昭雄（蔵）
【監事】・小松与惣雄（松柴）
・石綿国男（大琴）

【役場前】 佐藤博敦、加藤誠、小野祐喜、小松信記、嶽石文弥、小松昭作、大坂聖子、工藤良、猪股寿和、小松昌英、佐藤徳市、阿部清太郎、小松徳栄、横山泰明、阿部寿夫、畠山栄雄、小松明美、畠山通恵、高橋京子、高橋賢太郎、鍛崎和博、小松長敬、石渡博澄、遠藤吉喜、小野智子、小野貞男（以上二十六名）

【本庄高校下郷分校前】 佐藤和枝、小松清和、長谷山慶子、遠藤寿子、斎藤あつ子、猪股瞳、佐藤隆子、鈴木美代子、遠藤百合子、小松敏秀、吉田道子、鈴木緑、長谷山智行、工藤辰也、小野智、畠山明、八島篤、藤原正男（以上十八名）（敬称略）

献血ありがとう

八十一人の方がご芳志

号が九月二十四日来町し、町内五カ所で次の八十一人の方々から尊い血液の提供を受けました。

関係者は、この善意の献血に心から感謝しています。

なお、今回の献血から、献血された皆さんに後ほど県赤十字血液センターから血液成分

【大琴診療所前】 浅田菊雄、畑山文子、武田玲子、工藤太一、渡辺秀雄、阿部一郎、佐々木邦夫、浅田ひでよ、大塚和穂、鈴木金治郎、浅田一夫、阿部美奈子、阿部淳、小松真（以上十四名）

【大蔵館前】 小松恵子、遠藤弘子、石渡博一、鈴木ひさ、遠藤雅子、渡辺仁、阿部重樹、

阿部善孝、阿部久、工藤倫子、阿部穂、大沼秀子、小松育子、伊東健市（以上十四名）

【農協玉支所前】 小松勝也、鈴木政雄、菊地ハル子、小松修一、小野賢治、八島修、佐藤操、小松愛子、吉田悦子（以上九名）

児童扶養手当

57年9月分から引き上げ

特別児童扶養手当

次の二つの手当の支給額が改定され、昭和五十七年9月分から増額されています。改定額は次のとおりです。

☆児童扶養手当
○養育児童一人の場合……三万一千二百円——三万二千七百円

○養育児童二人の場合……三万六千二百円——三万七千七百円
○二級障害児童の場合……二万四千円——二万五千五百円

特別児童扶養手当

○一級障害児童の場合……三万六千円——三万七千七百円
○二級障害児童の場合……二万四千円——二万五千五百円

簡易水道
会計補正

拡張 工事費 一億七千万円追加

監査委員に遠藤氏選任

九月定例議会

町議会第七回定例会は、九月二十一日に招集され、会期を十月二日までの十二日間と決め、教育委員の任免、監査委員の選任、五十六年度各会計決算、五十七年度一般会計及び簡易水道事業特別会計の補正予算などについて審議が行われています。

今号では、行政報告、一般質問、議会水道事業調査特別委員長報告、九月三十日までに可決された案件について、概要をお知らせします。

行政報告

水道拡張
事業

住民負担軽減に努力

出羽丘
に補助のかさ上げ要望



行政報告を述べる町長

先般、鈴木首相は、国家財政の非常時宣言ともいえるべき談話を発表しました。

また、五十七年度税収不足から、地方交付税交付金の減額補正も行わざるを得ないという状況でもあるようです。

国際情勢は、ご案内のように世界不況と動乱が顕在しています。

本町が抱える課題の中の出羽丘陵開発事業は、昨年より、参加希望者が減少しています。この理由は、造成費が高いためです。そこで、県補助のかさ上げを主張し、陳情しています。

一昨日、全国和牛能力共進会で、本町出陳牛が優等賞を受けました。飼養率、増頭率が秋田県のトップに到達したところに、資質の優秀な牛が出てきたわけですね。

これにより、東由利において第二の基幹農業である畜産の発展の条件がそろったと申してもよいと思います。

しかし、欠けるものは、粗飼料の不足です。そのため、出羽丘陵開発は、必ず成功させなければならぬと考えています。

水道拡張は、未加入地域の皆様には長い間不便をかけたままですが、今議会に予算案を提案しました。

また、今夏でみられましたように、東由利水道の水量の状況も理解されたと思います。拡張事業に伴って、加入金及び水道料金の増高はやむを得ないところではありますが、町財政の限度において、可能な限り、住民負担の軽減に努力したいと考えています。

小学校統合については、両地域の代表者及び地域の組織において統合に努力しておられることを多とするといいです。地域の期待に添うような実質的な進展を願っています。

第三期山振については、計画検討期間が短く、十分な計画が煮つまっていませんが、特別対策事業の四億二千五百万円については、いちおう案を作成し県と協議しています。

八塩小学校建築は、天候に恵まれ、予定通り十二月二十日には完成をみられるよう進捗しています。

大平ヒュッテ及びスキー場造成も初期の計画通り進捗しています。

その他、道路改良事業の進捗状況は、今会期中、調査のうえでご報告申し上げたいと思います。

以上で行政報告を終わります。

歳出補正の主なものは、簡易水道特別会計繰出金一千八百八十四万三千円、湯出野線改良整備関係費一千五百五十万五千円、八塩小学校グラウンド整備費一千四百二十二万五千円、大平スキー場整備関係費四百五十二万二千円、道路災害復旧費（根小屋線、金山線）一千三百八十八万五千円、河川災害復旧費（稲子沢川、土場沢川、深山川、赤倉川、西ノ股川）二千六百六十八万九千円など。

【昭和三十七年度町簡易水道事業特別会計補正予算（第二号）】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ二億七千三百五十六万五千円を追加し、歳入歳出それぞれ三億三千三百六十八万九千円とした。

歳出補正の主なものは、東由利水道拡張事業費二億七千三百九十五万七千円。

東由利水道拡張事業は、五十九年度までの三カ年継続事業で、事業費総額は九億九千二百二十五万五千円。

【集落研修集会所建設に関する条例の一部を改正】

新たに「杉森地区農作業、



水道事業調査特別委員長小松 水
道事業調査報告をする

水道事業調査

特別委審査報告（概要）

調査検討し、一つの結論を生んだことは六月の定例議会でも報告済みのおりである。

後半は、設計規模とそれに対する現状認識の検討、新しく加入する地域の方々の話し合い、そうした結果をふまえて料金体系などについて検討してきた。

以上のような調査、検討を町とも密接に連絡を取りながら行い、今日に至った。

そして、ただ今、水道事業の予算案が上程され、委員会は、所期の目的を達したと存ずるしだいである。

以上、ご報告を申し上げます。

休養施設、東由利町杉森字田の頭十五番地」を加えたもの。

【監査委員の選任につき同意を求めることについて】

九月末日で任期満了となる監査委員・小番銚平氏（製材業、家の下、五十八歳）の後任に、遠藤莊二郎氏（農業、

小倉、六十六歳）を選任することに同意した。



新任に選任された遠藤委員

小番氏は、かねてから一身上の都合により辞意を表明していたもの。

遠藤氏は、現在、町民生委員総務、町選挙管理委員。

監査委員は、町の財務に関する事務が公正かつ効率的に運営され、また、事業の経営が合理的、能率的に行われて

いるか監査するもので、長が議会の同意を得て、議員及び知識経験者のうちから選ぶことになっている。任期は四年。（但し、再任は妨げない）

【教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて】

九月末日で任期満了となる教育委員に、伊東知也氏（蔵、

五十九歳）を再任した。

【昭和五十七年度町営土地改良事業の経費の賦課徴収等を定めることについて】

▽団体営ほ場整備事業「釜坂地区」▽農地農業用施設災害復旧事業「須郷尻地区（溜池）」の経費の賦課基準などについて次のとおり定める。

た。

○負担金の賦課基準 関係受益者の受益地の地積割。

○徴収の方法 金銭をもって普通徴収。

○徴収の時期 町長が定めた時期。

一般質問 (要旨)

企業誘致

などについて問う

小松悌之助議員

力しながら積極的に取り組んでいきたい。

【質問】 冬期交通の恒久対策施設として、流雪溝等を早急に計画実施すべきと考えるが。

【質問】 第三期山振計画アシェット調査結果等からみても、町内には企業誘致を望む声が多い。町では、工場用地を取得しているが、企業誘致についてどう考え、対応しているか。

【答】 昭和五十一年度に農村工業導入計画を策定し、その中に西山団地をうたっている。その後、五十六年度に五・八畝の用地を取得し、県で発行しているパンフレット「秋田の工場団地」に掲載して、PRに努めている。

企業は、利益を追求するものであり、輸送、流通、風土、労働力などが進出にあたっての因子となる。現在、経済の冷え込みなどから難しい情勢にあるが、議会の皆さんと協

県、農政局と協議している。この基本概要が決まったら今後、皆さんと協議し、内容的に検討していただきたいと考えている。

【質問】 社会教育活動の多様化、機能分担などの観点から、要望の多い町民体育館を早急に建築すべきと思うが。

また、旧玉米中グラウンドの整備についてどう考えている

出羽丘陵開発などについて質問

伊東庄一郎議員

【質問】 週休二日制について、わかりやすく説明を。

【答】 公務員の週休二日制への対応は、四週五休方式、つまり、四週間に一回交替して半日（土曜日）休ませるというもので、役場の業務は平常通り行うものである。

現在、国・県では本格実施をしているが、本町では、問題点の把握のため、試行を実施している。本格実施にあた

か。

【答】 十分な施設が建築できると、補助事業、融資制度を検討し、今後の課題としたい。

町民体育館の必要性は認識しているが、財政的にみて、小学校建築が終わってからでないと建築は難しいと考える。

旧玉米中グラウンドについては、町の公共関係用地とし

ては、住民の理解を得、町条例の改正が必要である。

【質問】 八省庁がマイナス要求、地方交付税も大幅減少という抑制予算のなかで、自主財源の少ない本町の今年度事業への影響、町財政の見通しは。

また、こうした厳しい状況にあつて、去る五月三十一日の議員協議会で、蔵・老方小の統合について住民の意志を尊重し、五十八年度には着工したいとの意志表示をしているが、この点の見通しは。

【答】 今年度の交付税については既に決定されており、各市町村ともそれに合わせて

ての利用、地元希望を併わせ、今後の課題としたい。

【質問】 観光開発推進の意図から、八塩開発についてプロジェクトチームをつくり、検討すべきでないか。特に、ダム周辺の遊歩道、ベンチ、外灯、キャンプ場、ボツメキ林道とダムを結ぶ道路などの整備を早急に実施すべきと考えるが。

予算計上、事業執行をしており、今後、減額されることはないと考えている。

蔵・老方両校の統合については、五十八年度に着工したいという考えに変わっていない。しかし、そのためには、建設用地、法律上の手続、用地取得・造成、設計概要など、具体的事項が日程的にきちんと決定されなければならない。今後、それらがどういう形で出てくるのか、出たものの具体的なうえにたつて検討しなければならないと考える。

【質問】 出羽丘陵開発事業について、これまでの説明の

【答】 ダム周辺については町緑化推進委員会、教育委員会などの関係機関と連携を取りながら管理、整備を進めている。

総合開発にあたっては、どんな制度を利用するかが問題であり、また、自然環境を保全しつつ、今後、関係機関と協議しながら推進していきたい。

ほかに、特に、造成費の軽減されるような協議がなされたか。また、今回の阿武隈山麓の開発事業を視察し、出羽丘陵開発事業を成功させるための推進策として、どのような考えを持たれたか。

【答】 農道分については町で実施するという約束は、その通り実行する。草地造成については、さらに五％補助率をかき上げるよう県に要望している。

【質問】 若い人も喜んで住できるように、企業誘致には、町長はもちろん、議会も最善の努力を払うべきでない。（次のページに続く）

(前ページから続く)
いか、町長の見解は。

〔答〕 若い人も喜んで定住できるように、企業誘致には、町長ひとり、議会ひとりというのではなく、みんながいっしょになって努力していかなければならないと考える。

道路用地買収 などについて問う

川尻幾郎議員

〔質問〕 草地造成費が高いことから、出羽丘陵開発事業への参加農家が減少している。事業遂行のために、補助金のかき上げも考えられるが、事業内容において、なお研究の余地がないか。

〔答〕 まず県に補助率のか

き上げを要望し、実現を図ることが第一段階であり、事業執行にあたっては、農家の希望、要望を聞き、くふう、反映させていきたい。

〔質問〕 過去毎年のごとく農協のライスセンター運営に對して補助金を出しているがマンネリ化したこの政策を改めるとともに、農協への強力な行政指導が必要でないか。

〔答〕 毎年利用率が低いという現状から、事前指導が必要という観点に立ち、農協に委託し、全農家を対象に、ライスセンター利用の希望・時期など(調査項目は町で指示)について意向調査を実施している。現在、調査結果の集計中であり、その結果をみたうえで対応していきたい。

〔質問〕 道路整備が進む中

蔵・老方小の 統合について質問

小野要造議員

〔質問〕 蔵・老方小学校統合校地の選定にあたっては住民サイドに一任してほしいとの要望から、地域の代表者会議で協議検討していると思うが、その結果、万が一、校地の合意が得られない場合、教育委員会、当局はどう判断するか。また、現況からして昭和五十八年度に着工できる見通しはあるか。

〔答〕 校地については、昨夜の両地区代表者会議で、西山区というところで合意を得た。しかし、同地区のどこに点をのぞくかは今後の問題として残っている。万が一の場合どうするかということについては、町当局、議会の皆さん方とも協議を願ひ、それに対処する方途を講じていかなければならないと考えるが、できるだけ両地区住民の協議による合意ができるように、今後努力を続けていきたいと考えている。

ただいま教育委員長から、昨夜お聞きのような合意が

で、最近、用地取得が出来なために予算執行に支障をきたしているものがある。用地取得にあたっては、行政のみでなく、住民サイドからも関

水道拡張事業 などについて問う

小野作右工門議員

〔質問〕 九月十四日に教民委員会での町内の学校視察をした結果、各小校とも雨もりがしており、トタンのふき替えが必要と思われる。中学校については、教室の天井及び体育館外装の塗装吹き付け補修備品倉庫が必要と思われるが、〔答〕 中学校の備品倉庫について、空き教室に入れられ

係者に働きかける努力が必要でないか。

〔答〕 現在、三線についてご指摘のような実情にある。今後、用地取得については、

ないものについては前向きに検討していきたい。

〔質問〕 八塩小学校建築工事の進捗状況と竣工見通し、工事費の支払方法、補助金等の見通しは。

〔答〕 工事は順調に進んでおり、九月十四日に躯体の打コンが完了している。今後、特別な悪天候等がない限り、計画通り十二月二十日までに完成できる見込みであり、教育委員会には、二学期中に新校舎に移転できるよう準備を進めてほしいとお願いしている。

補助金は、国からの指示額を予算計上しているものであり、間違いないと入ってくる。工事費の前払いはない。出来高三〇%以上になれば出来高請求できるという契約条項があり、現在進捗率は約四八%で業者から支払い要望が出ており、出納室と協議している。工期は残すところ三カ月程度であり、概算払いのあとで完成払いになると思う。

〔質問〕 去る三月議会で、老方小・蔵小の統合を五十八年度に着工するためには八月までに校地の決定が必要と述べているが、今後、県、文部省等のヒヤリングの見通し、

地域に推進委員会等を組織し一日でも早く解決するよう進めていきたい。地域で用地確保のめどがつかない所には、予算計上は難しいと考える。

五十八年統合実現に向けての当局の決意は。

〔答〕 用地の選定は住民サイドに任すべきだとのことから、そのようにしており、五十八年に着工できるような用地選定等を進めてほしい。予算編成上、県への補助要請は十月いっぱいが限度と思う。それまでに用地取得・造成、設計概要などの具体的内容が決まるかどうか問題であるが、五十八年度に着工したいという考えに変わりはない。

〔質問〕 中学校給食について、体力向上、偏食の解消などから、早急に実施すべきと思うが、教育委員会では計画されているか。また町長の考えは。

〔答〕 教育委員会としては総合計画の中に中学校給食をはつきり位置づけており、時期は明確に出来ないが、早期に実施できるよう推進していきたい。かねがね申し上げているように、小学校建築後にと考えている。厳しい財政状況を考慮し、早期に小学校建築がゴールに乗り、中学校給食が実施できるような町内の意識、環境をつくってほしい。

〔質問〕 東由利水道の臨時

工事、給水の方法、期間の見通し、また、お盆からの断水地域の現状は。

〔答〕 お盆からしばらくの間、標高の高い地域では断水、低い地域では断水とまではいかないまでも水の細い状態が続く、大変ご不便をかけた。臨時給水は、余水を取水地に返し、配水池に送って給水するというもので、現在も続けています。水量、導水管の太さ、凍結などを考慮し、臨時といながらも全期にわたって給水を続けなければならぬと考えています。

〔質問〕 水道拡張事業の設計、事業年度区分、工程、工法は。また、新加入地域の全戸加入を図る意味から、住民負担の軽減措置を講じるべきと考えるが。

〔答〕 拡張の基本概要は、善徳で一日千二百リットル取水し、松沢に浄水場を設置して給配水するものである。工事は、今年から三カ年。新規加入金の減額については、議会の代表者の皆さまに協議をお願いしたところ、加入金の減額は行わず、なんらかの工夫、手法を加えて実質的に軽減されるような措置を講じるべきであり、標準以上の配管工事費については町で負担すべき。このことであり、その方針に沿って進めていきたいと考えている。

狭あい曲折区間の改良を

国道
107号線

整備事業の促進陳情



早期整備を一層強く働きかけていくことを申し合わせた総会

国道一〇七号線整備促進期成同盟会の総会が、九月十四日雄物川町の三吉山荘で開かれました。

同会は、本荘、横手、東由利、雄物川、平鹿の二市三町で組織され、当日は、各市町の首長、議会議長のほか、来賓として、村岡、笹山両国会議員、柴田県会議員、長岡県土木部次長、梅森県道路課長、由利・平鹿の地方部長、土木事務所長らが出席しました。

総会では、本町の小松町長が議長をつとめ、行政改革など厳しい情勢の中で、沿線住民の生活及び福祉の向上、産業発展のため、同線の早期改良整備を関係各方面に一層強く働きかけていくなどを内容

とした事業計画を決めました。また今年、役員改選期にあたり、会長に佐藤憲一本荘市長、副会長に千田謙蔵横手市長と本町小松町長、監事に佐藤幸三平鹿町長と塩田昭司雄物川町長が再選されました。

一〇七号線は、本荘由利、横手平鹿両圏域を結ぶ大動脈でありながら、まだ狭あい曲折区間が随所にみられ、高速交通体系への対応の面からも一日も早い改良が望まれています。

町では、蔵工区工事が来年度で完成する見込みとなったことから、新たに奥ヶ沢地区、大琴地区、山崎地区の改良に着手するよう、関係機関に重ねて要請していくことにしています。

蔵・老方小統合協議の経過

「統合校地の選定は住民サイドで」とのことから、現在、両地区から選出された八名ずつの代表委員により、用地の選定について協議が進められています。以下、協議の経過概要をお知らせします。

〔6月17日〕・両地区議員協議会（議長招集）

- 町の統何方針である「三校案」を確認。
- 〔6月26日〕・合同協議会（議長招集、出席者：町長、議長、蔵・老方両地区議員、教育委員）
- 議長より六月十七日の協議結果の報告がなされた。
- 住民の意向を尊重するため、両地区から住民サイド

による委員を選任して統合促進を図るべきであり、委員の会合は教育委員会が招集することにした。

〔選出された委員〕（◎印は代表者、敬称略）

- ▽蔵、法内地区 ◎遠藤真吉（新処）・佐藤萬一（蔵）
- ・小野松雄（蔵新田）・畠山昭雄（蔵）・遠藤熊雄（新処）・阿部幸悦（岩館）
- ▽老方地区 ◎藤原虎之助（上

通）・佐藤達男（下通）・谷口圭一（上通）・高橋源一（下通）・小野久雄（新町）・長谷山誠明（下通）・小松俊太郎（中通）・小野義雄（中通）

〔7月6日〕・第一回協議会（蔵地区五人、老方地区七人出席）

- 統合を前提として話し合いをすることを確認。
- 老方地区の意向：蔵小現校地は否定。
- 蔵地区委員：現委員は従前からの委員であるため、この機会に、地区推進組織の全体会に諮り、新たに委員を選出して協議にのぞみたいとの申し入れがあった。

〔新たに選出された蔵地区委員〕（◎印は代表者、敬称略）

- ◎遠藤真吉（新処）・伊東国男（蔵）・小野松雄（蔵新田）・阿部幸悦（岩館）・遠藤熊雄（新処）・小野謙蔵（黒沢）・遠藤傳治（桂台）・阿部蔵次（高村）
- 〔8月8日〕・第二回協議会（両地区委員全員出席）
- 蔵地区委員：候補地として「蔵小現校地」「藁沢付近（西山線沿線）」「宮の前」「横渡」「小田山」地区を発表し、老方地区の候補地の発表を要望。
- 老方地区委員：蔵小現校地を候補地から除外することの条件を提示し、除外し

後田随想



助役 小松民三郎

た段階で候補地を提案すると答える。

〔9月20日〕・第三回協議会（老方地区四人、蔵地区八人・遠藤熊雄から遠藤兵一に交代）出席

- 蔵地区委員：蔵小現校地を除外することにし、「横渡」「西山線沿線（蔵字田子の沢地内）」「宮の前」を提案。
- 老方地区委員：「西山線沿線（両校校門から測定して中間地点）」「宮の前」を提案し、後に「宮の前」を

以上がこれまでの経過です。

本町は、一市六町と接し、これら市町と結ばれる幹線路は十路線あります。町勢の発展と開発整備を図るためには道路網の整備が最も重要なことであり、ここ十数年来、関係機関、町民のご協力をいただいて着実に進展し、大きな効果が生まれつつあります。

一方、町基幹産業の農業面では、整備可能水田のほとんどがほ場整備され、所得向上を図る戦略的基盤はほぼ確立されました。

こうした中、本町の肉用子牛販売頭数は、五十六年度八百三十頭で、販売額は三億円を超え、立地条件、出羽丘陵開発事業導入などから、複合経営の一態様として確立されつつあります。

複合経営の導入は、具体的事例を通して見つけ、他からの勧めや指導のみに頼らず、自らの発意により取り入れる必要がありそうです。

農畜産物の自由化、生産物の価格低迷など、農業を取り巻く情勢は厳しいものがあります。これらの問題について考えることも重要ですが、考えることのみにこだわってはいけません。新しいものの導入がなかなか進みません。本町の諸条件を考え、具体的事例を求めて町民皆様の積極的な行動を期待し、併わせて行政の対応を考えたいと思います。

「跡見坂地内」と訂正する。

○ この日、協議の結果「西山線沿線」で双方一致した。

〔9月27日〕・第四回協議会（老方地区八人、蔵地区七人出席）

○ 両地区から提案された西山線沿線の二地点を現地視察したが、合意を得るまでにはいたらなかった。

・老方地区提案地「蔵字上の山地内」

・蔵地区提案地「蔵字田子の沢地内」

設立10周年を盛大に祝う

大琴畜産改良組合

子牛販売額は2千万円を超す



大琴畜産改良組合では九月十七日、高瀬館を主会場に組合設立十周年記念式典を盛大に行いました。同組合は、昭和四十七年六月に、組合員三十人で結成。以後、草地管理や削蹄、畜舎消毒などを共同で実施するとともに、視察研修や講習会を独自で開催し、お互いの知識技術の向上に努めてきました。現在、飼養頭数は、七十頭と結成当時の約三倍となり、子牛販売額は二千万円を超えています。また、町畜産共進会

では毎年各部門に上位入賞を果たし、昭和五十三年から三年連続和牛の部で団体優勝に輝くなど、着実な成果をあげてきています。当日は、同組合員のほか、他の町内和牛研究会員ら合わせて百三十人余りが参集。午前中は、梓場に牛を引きつけ、県畜産試験場の高橋主任専門研究員から繁殖成績をあげるための飼育管理▽改良及び子牛の飼育管理—について現場講習を受け、由利畜産農協の富樫参事から畜舎の現地指導が行われました。午後からは、佐々木県畜産試験場長の「今後の肉用牛（黒毛和種）の展望について」と題する講演のあと、祝賀会に移り、組合員らはお互いに杯を交わしながら十年を振り返り、さらに二十周年に向け新たな発展を誓い合っていました。

範子さん(大琴小)二種目で大会新

第14回市郡小・中学校水泳大会

第十四回市郡小・中学校水泳大会が、八月二十五日日本市民プールで行われ、大琴小学校六年の佐々木範子さんが五十メートル自由形の二種目を大会新記録で制したのをはじめ、同小選手が九種目入賞の大活躍をしました。

また、中学校の部で東由利中選手も力泳しましたが、わずかの差で上位入賞はなりませんでした。



上位成績は次のとおりです。
(マル内は順位)
【小学校(大琴小)】
(男子) △六年五十メートル自由形 ③佐々木良一 △同百メートル

二年連続二種目優勝の佐々木範子さん
自由形 ③佐々木良一 △二百メートル
②佐々木良一、小野弘通、佐々木健夫、遠藤育英
(女子) △六年五十メートル自由形 ①佐々木範子(1分28秒6、大会新) △同五十メートル背泳 ③鈴木貴子

葦沢集落内の舗装完成

団体営農道整備事業で整備
モデル事業

葦沢集落内道路の改良舗装完成祝賀会(八塩館で)

年、車道幅員四メートルに舗装したものです。

この日の出席者らは、関係者の理解と協力により着工から実質二カ年で集落内全線の舗装完成をみただけに、その喜びもひとしおのようで、祝賀会場では、地区住民らがカラオケや手踊りを披露して盛大な宴となり、お互いに杯を交わしながら念願の改良舗装完成を祝い合っていました。

葦沢集落内道路の舗装工事がこのほど完成し、九月五日地区住民、町、議会、施工業者ら約五十人が出席して、八塩館で盛大に祝賀会を行いました。同集落内道路のうち、黒瀬から集落内までの一、〇七〇メートルについては、団体営農道整備事業として、五十五・五十六年の二カ年で全幅五メートル、車道幅員四メートルに改良舗装。また、同集落と新沢を結ぶ町道葦沢線の集落内部分一九一メートルについては、農村総合整備モデル事業で昨年、全幅五メートルに改良、今

7月～9月
発注事業

6工事 2,747万円

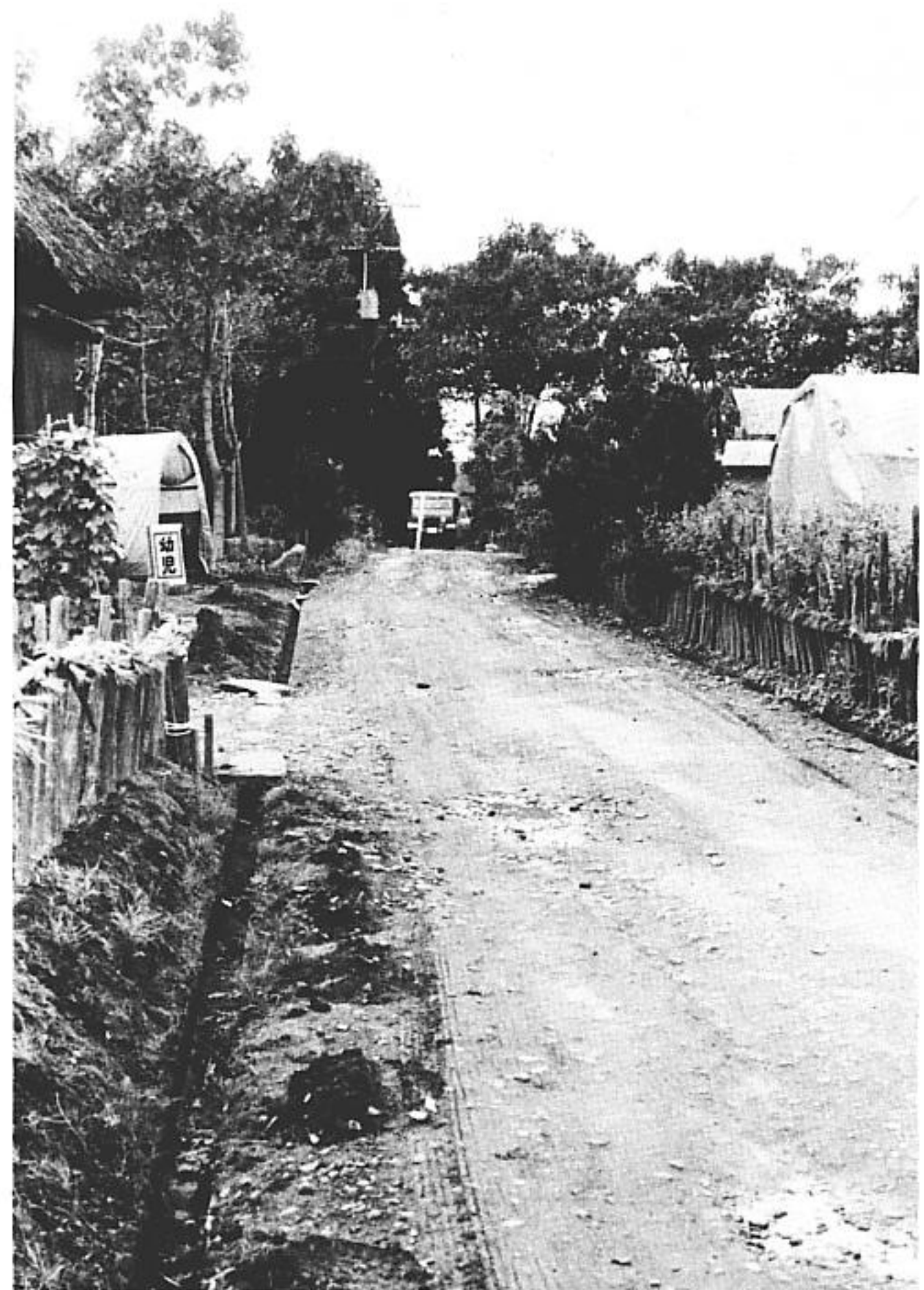
- ▷ 町では、豊かで住みよい生活環境の整備をめざし、今年
- ▷ 度も各種の建設事業を進めています。7月以降これまで、
- ▷ 指名競争入札を行い次の工事を発注しました。
- ▷ 工事期間中、通行される皆さんには不便をおかけする場
- ▷ 合もあると思いますが、工事の早期完成のためご協力をお
- ▷ 願いします。

湯出野集落内の三三三線を

◎寺田湯出野線

道路改良

全幅五メートル、車道幅員四メートルに改良するものです。



今年改良されることになった寺田湯出野線（湯出野集落内）

- ▽契約金額 九〇〇万円
- ▽請負者 村上建設
- ▽工事期限 十二月二十日

百メートル走り幅跳 雅子さん

貴子さん(大夢小)三位・留美さん(大夢小)四位

(八塩小)全県二位

全県選抜陸上競技大会が、九月二十六日八橋陸上競技場で行われ、本町八塩小学校六年の長谷山雅子さん、大夢小六年の鈴木貴子さん、同小五年の池部留美さんが、百メートル走り幅跳びでそれぞれ

それぞれ二位、三位、四位の好成績を収めました。

成績等は次のとおりです。

【女子】▽五年百メートル 池部留美(15秒3) 四位

▽六年百メートル 長谷山雅子(14秒3) 三位

▽六年百メートル 鈴木貴子(14秒6) 二位

▽走り幅跳び 二位 長谷山雅子(4.41)

◎大台地区農道

大谷地内の一三三八線を全幅五メートル、車道幅員四メートルに改良するものです。

- ▽契約金額 九四〇万円
- ▽請負者 興北協和
- ▽工事期限 十一月三十日

◎土場沢線(拡張)

下吹地内の大平農道との接点から大平スキー場入口間の五六〇メートルを、全幅六メートルに拡張するものです。

- ▽契約金額 四二〇万円
- ▽請負者 長谷山建設
- ▽工事期限 九月三十日

◎土場沢線(補修)

下吹から土場沢に至る峠の部分一四〇メートルを補修するもの

県工事発注情報

(由利土木事務所)
9月16日 入札

〈県単簡易舗装〉

- ▽路線名 仁賀保矢島館合線
- ▽施工箇所 館合地内
- ▽契約金額 五二二万円
- ▽工事期限 十月三十日
- ▽請負者 長田建設

〈県単局部改良〉

- ▽路線名 橋瀬横渡線
- ▽施工箇所 黒沢地内
- ▽契約金額 七三五万円
- ▽工事期限 三月十日
- ▽請負者 吉田工務店

〈県単河川改良〉

- ▽河川名 石沢川
- ▽施工箇所 黒沢地内
- ▽契約金額 一四二万円
- ▽工事期限 十二月二十日
- ▽請負者 広川工務店
- ▽河川名 石沢川
- ▽施工箇所 田代地内
- ▽契約金額 一、〇二五万円
- ▽工事期限 十二月二十日
- ▽請負者 佐藤組

- ▽契約金額 一九〇万円
- ▽請負者 佐々木組
- ▽工事期限 十月二十五日

◎旧法内小道路

旧法内小道路の急坂部分一二〇メートルをコンクリート舗装するものです。

- ▽契約金額 六十万円
- ▽請負者 村上建設
- ▽工事期限 十月二十日

消防機械置場

- ▽建築場所 五海保
- ▽構造 木造平屋建一棟、面積三三・一二四平方メートル
- ▽契約金額 二二七万五千円
- ▽請負者 佐藤組
- ▽工事期限 十月三十一日

あなたも参加して!

町生活文化祭・農協祭

- ▷とき 11月6日～7日
- ▷ところ 有鄰館・朋楽荘・公民館・ライスセンター

民謡日本一

和子さん“ふる里”に唄う

歌や踊りで観客魅了



町民謡同好会と浅野和子後援会の主催する「民謡日本一・浅野和子ふるさとに唄う」と題した民謡ショーが、九月十七日東田利中、大琴小両体育館で昼夜二回行われ、浅野和子さんとともに、石綿（石綿清保さん二女）小さいときから民謡が好きで、中学卒業と同時に秋田市の民謡家、浅野梅若氏に弟子入り。以後、厳しい練習に耐えながら腕をみがき、昭和四十三日本一ののどを披露し、観客を魅了した和子さん（東中体育館で）

東田利の地名

=28=

〇〇ながねと呼んでる場所。あちこちにあつて、長嶺・長根とも書き、どちらも山の屋根や分水嶺をいう。さくらながねはどちらのながねが正しいかはつきりしないが、あたりが一望でき見通しのよいながねである。このながねは仇討ちのあった所として知られている。仙台藩士佐藤多利治が学問上の対立で相手を斬殺し、蔵の伊藤利平（屋号）さん宅の一室を借り、手習いの

さくらながね

師匠として身をかくしていた。しかし、兄の敵と狙う弟新井両窓の知るところとなり、矢島（生駒）・亀田（岩城）藩境のさくらながねで行うことを両藩で決め（当時自藩内で仇討ちが行われると、後始末が面倒だった）。仇討ちが実

の殿様の参勤交代（蔵・老方・湯出野を通じて大沢・湯沢に出た。）や幕府の巡見使が通った道で、山ざくらがあちこちに見られるがさくらの名所ではない。しかし、矢島・亀田両藩の境界なので、杭をうった柵がつくられ、関所のようになっていた場所、柵のあるながね・さかいのながね・漢字で柵等と書いたのが柵等に変わったと考えるのがよいのである。仇討ちを美化するためかも知れないが、それ以前にさくらながねと呼んでいた。

(文・畑山昭一)

年NHKのど自慢全国大会で「秋田荷方節」を歌い、みごと民謡日本一の座についたのです。

当日は、和子さんとともに師匠の浅野梅若さん率いる梅若会一行二十人、町民謡同好会員のほか、本町荻沢出身で尺八奏者の藤丸貞蔵さん、大内町出身の民謡日本一、佐々木常雄さんが友情出演。三十曲近い歌と踊り、漫芸を披露し、広い体育館を埋めつくした観客を魅了しました。

畑山さんに表彰状・大庭さん夫妻に感謝状

県社会福祉大会

「より豊かな福祉社会をめざして」を統一テーマに、昭和五十七年度秋田県社会福祉大会が九月一日・二日の両日、秋田市の協同社大町ビルと県民会館で開かれ、式典の席上、社会福祉事業功労者として下吹の畑山寅松さんに表彰状、里親事業功労者として舟木の

大庭時雄さん・キエ子さん夫妻に感謝状がそれぞれ佐々木知事から贈られました。

畑山さんは、長年にわたり、民生児童委員として地域社会福祉の増進に貢献してきた功績が認められたものです。また大庭さん夫妻は、長年にわたり、里親として里子の養育にあたってきた功績が認められたものです。

町長日記

三年続きの冷害かと心配されていましたが、幸い好天気に恵まれて平年作の見通しになりました。

景気の方は思わしくなく、本町の水道拡張事業に指命願いの業者が六十社にもものぼっており、不況のためと思います。

国の財政は火の車で、明年度の本町の公共事業、補助事業の枠が気になるところです。

五十六年度の本町の決算を、九月定例議会に提案しました。決算額が二十億七千八百万円、黒字が六千七百万円出まして、本年度へ繰越しになっていきます。

五十五年度は九千七百万円の黒字でありまして、五十六年度に繰越されていますから、黒字と言っても翌年度の歳入としてアテにされている性質のものとなっています。財政調整基金は、五十六年度末で二億九千八百百万円に繰越しました。五十七年度末では二億二千万円程度で五十八年に繰越される見込みです。

歳入を大きく分けると、自主財源と依存財源に分かれます。五十六年度決算でその割合は、自主財源は一七・八%、依存財源は八

二・二%です。

歳入は経常経費と臨時経費に分かれます。経常経費は人件費等で、常に必ず必要な経費で、臨時経費は建設事業、災害復旧費等であり、この割合は、経常経費は五四・七%、臨時経費は四五・三%です。経常経費の割合が大きくなりまして、事業をするお金が食われてしまうことになります。

次に、町の借入金、十九億円ありますが、返済金に国が補助する制度がありまして、実際の償還元金は概算で十億四千四百万円です。

佐藤政次先生が急逝されました。八十歳のお齡でありましたが、いつもお元気で、年に一、二度は必ず役場を訪ねられ、ご指導を賜りました。在東京の東田利会の会長をされ、同郷人の信頼が厚く、東田利町と東田利出身者のためにいろいろと配慮されておられました。秋田師範学校卒業後、

教育者として、小学校、中学校、高等学校、大学に教鞭と学校経営に尽力され、学究として文学博士の称号を得られた幅広いご一生でありました。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

10月のこよみ

陰暦異名・神無月(かなづき)
誕生花・りんどう(あなたが悲しむとき、私は愛する)
誕生石・オパール(忍耐)

曜 日	行 事
1 金	
2 土	9月定例議会最終日
3 日	
4 月	リハビリ学級、民生委員協議会
5 火	インフルエンザ予防接種(八塩小)
6 水	三種混合予防接種
7 木	
8 金	インフルエンザ予防接種(老方小、みどり保育園)
9 土	
10 日	体育の日
11 月	振替休日、全国防犯運動(～20日)
12 火	家屋調査(一次)開始、妊婦健康相談
13 水	ことぶき大学、インフルエンザ予防接種(蔵小)
14 木	
15 金	インフルエンザ予防接種(大琴小)
16 土	全町マラソン大会、奥羽横断駅伝大会
17 日	
18 月	結核ブルセラ病検査(～19日)
19 火	インフルエンザ予防接種(東中)
20 水	国保税(2期)督促状発送
21 木	結核ブルセラ病検査(～22日) 三歳児健康診査
22 金	インフルエンザ予防接種(八塩小)
23 土	
24 日	
25 月	第三回健康大学
26 火	
27 水	県食糧基地推進大会(県民会館) 一歳六カ月児健康診査
28 木	農業委員会、乳児健康相談
29 金	インフルエンザ(老方小、みどり保育園)
30 土	朴の木沢放牧場閉牧
31 日	
摘 要	町県民税(3期)、固定資産税(3期)納期限 年金保険料納付強化月間

やさしさを隣人に あなたの胸に赤い羽根を!



1人ひとりのやさしさと、たすけあいの心——それが赤い羽根

十月一日から、赤い羽根の共同募金運動が始まります。

共同募金運動は戦後間もない昭和二十二年に産声を上げて以来、今年で三十六回目を迎えます。その間に寄せられた善意のお金は約千七百四十億円にも上り、老人福祉、

おしらせ

町の概要

人口総数 6,297人
うち男 3,107人
うち女 3,190人
世帯数 1,443戸
面積 148.51km²
(57.8.31現在)

たすけあいの心——お互いに困ったときはたすけあい、住み良い地域社会をつくるための活動にみんなで参加しよう——という一人ひとりのやさしさと、たすけあいの心を表したものの、それが赤い羽根です。

心身障害者福祉、児童福祉、地域福祉などのいろいろな社会福祉事業や更生保護事業を進めるために役立てられています。ちなみに、昨年は、全町から九十万五千七百二十二円の寄付金が集まりました。このお金は、県共同募金会に納められ、地域福祉のための

一般配分金、在宅福祉サービス事業としての特別配分金、合わせて六十五万二千円が町社会福祉協議会に還元されています。今年度は、共同募金運動発足三十五周年に当たることから、これを記念して、老人と障害者の生きがい対策のため

青年の主張全国コンクール原稿募集

NHK秋田放送局

〔参加資格〕 昭和32年1月16日から昭和42年4月1日まで生まれた方。

〔課題〕 ①青春、ここに打ち込む ②わたしの生き方を変えたもの ③いま、日本を考へる ④この外、課題の主旨に沿ったものであれば題名は自由——この中から一つを

選ぶ。

〔原稿の長さ〕 四百字詰原稿用紙四枚程度(発表時間五分以内)

〔応募期限〕 10月22日(金)当日消印有効

〔送付先・問い合わせ先〕 〒010 秋田市山王一丁目一番二号 NHK秋田放送局「青年の主張」係(電話〇一八八—三三—五四—)

社福だより

社会福祉の増進に役立てて

慶弔だより

8月21日～9月20日受付

〇こみ声

佐藤 力 寺田 松好 長男
遠藤 志保 祝沢 寿幸 長女

〇結婚

高橋 定敏 宿真一 長男
阿部 ゆき子 宿真一 長男
小野 泰好 宿真一 長男
小坂 政子 宿真一 長男
鎌田 次男 宿真一 長男
小松 好子 宿真一 長男
佐藤 龍子 宿真一 長男
岡田 五男 宿真一 長男
高橋 和加子 宿真一 長男
遠藤 新田 宿真一 長男

・お悔み申し上げます

小松 惣吉 黒沢 50歳
柿崎 千代 下通 68歳
志村 ハルオ 新町 81歳

統計で見るわが町 ⑤

農家経営耕地面積

市町村名	順位	指標
大湯村	1	8,835ha
県平均		2,167
田代町	46	1,428
東由利町	47	1,422
森吉町	48	1,338
八森町	69	338

昭和55年2月1日・農林水産省「1980年世界農林業センサス」

(注) 1.経営耕地面積は、田・畑・樹園地の総数
2.県平均は、69市町村の算術平均

1農家当たり経営耕地面積

市町村名	順位	指標
大湯村	1	15.23ha
金浦町	25	1.38
東由利町	26	1.37
県平均		1.36
天王町	27	1.35
八森町	69	0.62

昭和55年2月1日・農林水産省「1980年世界農林業センサス」

(注) 総経営耕地面積を総農家数で割ったもの。



若年婦人 と 婦人会員 子育てで話し合い

町連合婦人会(小松ミキ会長)では九月二日、町有隣館を会場に「子どもの健全育成」と明るい家庭づくりのための婦人の役割はどうあればよいか」をテーマに、若年婦人との交流会を開き盛会をきわめました。

交流会は、若年婦人の大半が就労していることから、退社時刻の午後五時半からすぐ開けるよう、婦人会役員たちが昼すぎからカレーライスを準備、主催側としての配慮をしていました。

参加者は若妻など、いわゆる若年婦人が六十一人、会員三十人を数え、まず、家庭生活上の色々な問題点を取り上げた「家庭とは」という映画の鑑賞で始まり、それぞれが問題意識をもったところで五つの分散会に分かれて本番の交流に入りました。

話し合いの中心は、青少年の非行防止と家庭環境のあり方、特に婦人の役割りにしほ

られました。

あまりにも忙しすぎる日々の生活の中で、子どもにゆとり接し、目を向けている時間がない。そのため子どもを祖父母にまかせっきりになっているなども、甘やかしゃ、わがままにながっている……などが共通反省点として出されその対策等も出し合われまし

地域の連帯深まる



法内分館秋まつり

五グループに分かれ、それぞれ本音で話し合った



た。▽食事や入浴時はつとめて話し合うよう心がける▽祖母と一体となり子育てやしつけについて学び合う▽子どもの前で夫婦げんかはしない▽感情だけでもやみに叱らない▽子どもにも仕事を分担させる――など、活発に意見が出されましたが、どの若年婦

人も「姑には感謝している」というほほえましい意見が圧倒的でした。

一時間半にわたる分散会の時間が短かった。自分の家庭を外から見ることでできたなど、交流会の成果を評価する声が多く出されていました。

民俗資料 寄贈ありがとうございます

東由利中学校の民俗資料室に次のとおり貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。

▼石綿徳市郎(大台)から、馬具・土摺臼・米搗き用杵・米俵締機・塵とばし機
▼石渡安次郎(蔵新田)から、柱時計▼高橋源一(下通)から、馬耕用鞍・米選機・田植用型・馬のつら

変化に富んだ楽しい企画をモットウにした法内分館(阿部重助分館長)の第四回「秋まつり」は、九月十一・十二の両日同分館を主会場に全地区民が参加、盛大に開催されました。

今年のテーマは「ふるさと」「健康」で、初日は成人病予防を主眼にした手作り料理の実演と試食、みこしを担いでの地区内巡回、二日目は各自治会競演の演芸会とマジックショウが行われ、まつりのハイライトとなりました。

趣向を凝らしたオリジナル

おしらせ

町生活文化祭 「マタギ」上映

町生活文化祭(11月6日～7日)の映画劇場(会場有隣館)では、秋田を舞台にロケーションを行い、全国的に感動を巻き起こした「マタギ」を上映することになりました。ご期待ください。

日時 11月7日(日)

午前10時から

ABS秋田放送局 解説委員長が講演

10月13日に朋楽荘で開催される第5回ことぶき大学に、ABS秋田放送の石川嘉明解説委員長を迎え、午前10時から「世界と日本の経済」というタイトルで講演をしていただきます。一般の方々も多数聴講してください。

10月17日は家庭の日



法内分館秋まつり



宿分館演芸会

演劇、踊り、民謡や歌謡などバラエティに富んだ出しものに会場からは終日大きな拍手と笑いの渦が沸き上がり、大成功をおさめました。

阿部分館長は「マンネリ化防止に毎年新趣向を取り入れ地区民の融和と連帯の高まることに期待している」と語り早くも来年への新たな意欲を燃やしています。

また宿分館(遠藤聚一分館長)でも九月十一日、大琴小

体育館で演芸会を開催、主体となつて運営した青年会員と地区民が一体となり、取り入れ前の一日を楽しみ合いました。

両分館とも、連日の練習を続けた成果の発表だけにステージ上では素人ばなれの熱演が続き、会場から毎回大きな拍手の渦が沸き上がっていました。練習やこうした発表を通して地域の連帯感が一層高まったものと考えられます。